

異物誤食とは

子犬さんや好奇心旺盛な若い子で多い他、認知症になりかかっているシニアの子でも稀に見られます。小さいものであれば腸を通過して便に出ることもありますが、腸管を傷つけるリスクがあります。**腸閉塞や中毒を起こすと命に関わる場合もあり、致死率が高い疾患でもあります。**

《これまでにあった異物誤食症例》

- 散歩中に落ちていたフランクフルトの串を食べた。
 - 全く症状は無かったが、スーパーボールをいつの間にか3個食べていた。
 - 子供用の靴下を丸呑みした。症状が無く、元気になっていたが数日後胃に穴が開いた。
 - 餌のついた釣り針を食べ、舌の奥に刺さった。
 - ネズミのついたおもちゃを紐ごと食べ、お尻から紐だけ出てきた。
 - 糸のついた縫い針を食べた。
 - 観葉植物をかじっていた(観葉植物の多くはペットにとって有毒です)
 - ゴミ箱を漁って、タバコを食べた。
 - 仏壇に置いてあったブドウを食べた。
 - 来客対応中に机に置いていたカフェオレを全部飲んでいました。
 - おじいちゃんが落とした薬を飲んでしまった。
- 他にも、梅の種、トウモロコシの芯、小石、タオル、リモコン、1円玉、蟻トラップ、ボタン電池等もありました…。



《治療》

◆ 催吐処置

飲んだものが小さく、角の無いようなものであれば選択します。嘔吐を誘発するお薬を静脈から入れます。嘔吐をしても異物が出てこない場合は次の治療に進みます。

◆ 内視鏡

全身麻酔をかけて内視鏡で異物を確認し、そのまま摘出します。大きさや形状によっては摘出が難しい場合があります。また、胃内に異物がある場合に限り、それ以降に流れてしまった場合は手術になります。

◆ 外科手術

全身麻酔下でお腹を開き、胃や腸を切開して取り出します。術後数日をかけて水、流動食、ウェットフードと段階を踏んで食生活をもとに戻していく必要があります。

◆ 活性炭製剤

観葉植物やチョコレートなど、中毒を起こす可能性のあるものを誤食した場合、少しでも中毒物質の吸収を抑えるために活性炭製剤で吸着して便に排泄させます。

《生活で気を付けていただくこと》

✓ 再発予防のための環境を整える

一度異物誤食をした子は、かなりの確率で再度誤食をします。食べてしまいそうなものや危険なものは届かない所、開けられない所に片付けましょう。

✓ 拾い食い予防

拾い食いをしてしまう子は、口にくわえてから取り返そうとしても急いで飲み込んでしまいます。くわえさせないようにするため、かご型の口輪などを活用しましょう。普段から「ちょうだい」のトレーニングをしておくことも有効です。

✓ 退屈に注意

普段は何も感じないものでも、体力が有り余っていて退屈な時だと興味を抱いてしまうものです。